

果樹カメムシ情報第1号

平成26年5月16日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

東三河地域山間部のウメ園に多飛来！

豊橋市の予察灯で5月13日にチャバネアオカメムシ誘殺数急増！

越冬世代成虫の活動が活発になってきています

今後、平坦部の果樹園においても多飛来の可能性高・・防除の準備を！

1 発生状況

- (1) 今年のチャバネアオカメムシ（図1）の越冬成虫密度調査では、県内15地点の平均越冬成虫密度は3.2頭/m²で、過去10年間で2番目に多い状況でした。
- (2) 予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺数は、豊橋市で5月13日に急増し、5月第3半旬（今年は5月13日）までの総誘殺数は、平年の3.1倍（本年80頭、平年25頭）と過去10年間で2番目に多い状況です（図3）。
- (3) フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数は、幸田町で5月第2半旬に急増しました（図3）。豊田市、豊川市では、まだ急増していませんが、徐々に誘殺され始めています。
地域差がありますが、県内の広い地域でチャバネアオカメムシの果樹園への飛来が始まっていると推測します。
- (4) 現在、果樹カメムシ類が東三河地域山間部のウメ園に多飛来し、落果など大きな被害が発生しています。今後、気温の上昇とともにさらに活動が活発になり、平坦部の果樹園に多飛来することが予測されます。
- (5) 今年は、ツヤアオカメムシ成虫（図2）も非常に多く確認されており、果樹カメムシ類の飛来量は、越冬世代成虫の飛来が過去10年で最も多かった平成22年と同程度に多くなる可能性があります。



図1 チャバネアオカメムシ成虫



図2 ツヤアオカメムシ成虫

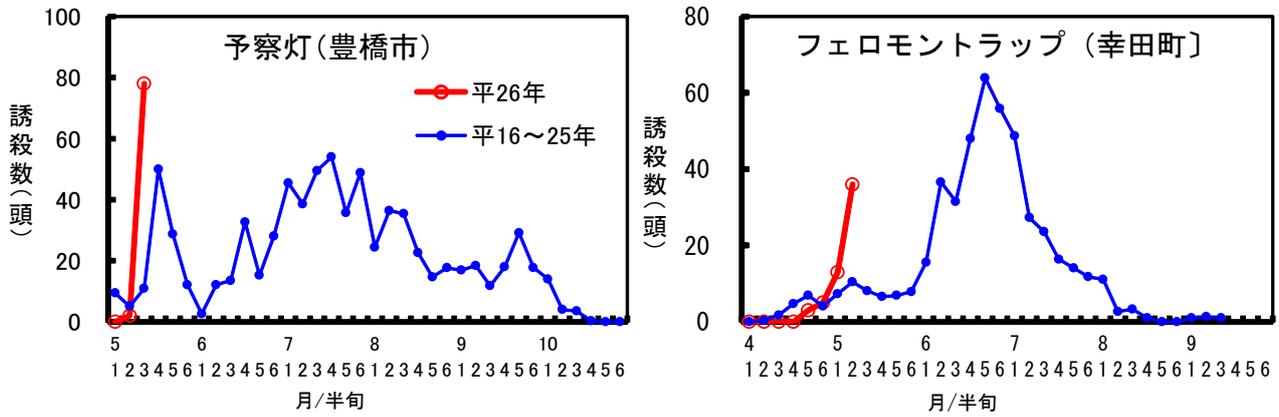


図3 チャバネアオカメムシの誘殺数

(左:予察灯、右:フェロモントラップ、予察灯は5月13日までの誘殺数)

2 防除対策

- (1) 果樹カメムシ類は、20℃以上で風がない夜に行動が活発になり、長距離の移動もするようになります。そのため、突然、平坦部の果樹園に飛来しますので、園内をよく見回り、成虫の飛来状況を確認しましょう。
- (2) カメムシ類は局地的に飛来して、集中して加害する傾向があります。また、園地間差が大きいので、過去にカメムシ類の被害が多かった園では特に注意しましょう。
- (3) 越冬世代成虫量が多い年は飛来が長期間続くので、飛来を確認したら、表を参考に残効の長いネオニコチノイド剤もしくは合成ピレスロイド剤を散布しましょう。

表 カメムシ類に対する主な防除薬剤と使用基準

作物名	薬剤名	系統
ウメ	アクタラ顆粒水溶剤	ネオニコチノイド剤
	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド剤
	ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド剤
	スカウトフロアブル	合成ピレスロイド剤
モモ	アドマイヤー水和剤	ネオニコチノイド剤
	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド剤
	ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド剤
	MR. ジョーカー水和剤	合成ピレスロイド剤
	テルスターフロアブル	合成ピレスロイド剤
ナシ	アクタラ顆粒水溶剤	ネオニコチノイド剤
	アドマイヤー水和剤	ネオニコチノイド剤
	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド剤
	ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド剤
	MR. ジョーカー水和剤	合成ピレスロイド剤
	スカウトフロアブル	合成ピレスロイド剤
ブドウ	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド剤
	ダントツ水溶剤	ネオニコチノイド剤

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。